

であり、そういうことを従業員に伝えるコミュニケーションを改善している。当面は国際的な品質管理の基準であるISOの認証の取得を目指しており、その中でマニュアル類の整備・改善を進めていく。

(安心策)

Q 国・東電とも地元の安心・安全と言っていたのがいつの間にか安全の部分のウエイトが高まり、安心の部分がトーンダウンしてきている。国では10月に多少改正があるようだが、地元住民の安心を得るため何か検討頂ける余地は。

A (東電) 安心の具体的な事例は名案はないが、一つは情報公開、透明性が大事。安心は信頼と対であり、信頼のない人が何を言おうと正しいことをしようとする。発電所の職員挙げて足下から皆様の信頼をいただくよう努力し、その変わり様を皆様にご覧いただくよう努めている。

(技術委員会)

Q 県の技術委員会が、色々と見て安全だと判断したという

報道を聞くが、議論が全く見えてこない。満場一致でそうなっているのか、その辺の状況を知りたい。

A (県) 技術委員会自体、マスコミにも公開しているが、できるだけ皆さんに伝わるように報告していきたい。

(その他)

Q 点検計画書は社内用なのか、保安院に提出された文書なのか。大体何ページぐらいか。

A (東電) 供用期間中検査は、10年計画で定めており、A4で厚さは約3センチ。4月17日付の国の行政指導書に基づき提出した紙の枚数は、福島と合わせ36ページ。

Q 県発行の「原子力発電の現状」で、14年度版まで載っていた従事者の放射線量が15年度版からはなくなっている。従事者の安全をそういう数字から確認したい。なぜ大事な数字が県の報告書から削られたのか。掲載してほしい。

A (県) 他意は無く、資料が厚くなってくる為少し削ったもので次回から載せる。

臨時会を開催しました

日時	第1回…7月17日(木) 18時30分～21時20分 第2回…7月31日(木) 18時30分～21時10分
場所	東京電力のビクターズ ハウス・会議室
内容	4号機再循環系配管の 過去5年間の点検記録 等の確認
出席者	第1回…委員14名 第2回…委員8名 (欠席2名)
説明者	東京電力、日立製作所

冒頭、議長から臨時会開催の経緯の説明がありました。
・7月14日に委員5名から4号機再循環系配管の点検記録の確認を希望するとの要請。
・点検記録の公開と説明を受けるとは今後の点検方法を知り、品質管理について議論できることから開催を決定。

これに対し、開催が唐突すぎる、開催を運営委員会に諮る必要があったのでは等の意見があり、今後は臨時会の開催は運営委員会に諮ることとしました。

次に臨時会を要請した委員からその趣旨と重点的に聞きたい事項の説明がありました(第1回のみ)。

・定期検査で異常なしの箇所が同時期の自主点検ではひびありという事例が他の原発である。同じ会社での点検であり、過去5年間の定期検査での異常なしが信用できるか疑問。定期検査の手法が粗いのであれば、この様な点を確認したい。



超音波探傷の実演

次に、東京電力から4号機再循環系配管の点検状況・方法やデータの見方の説明、日立製作所の検査員から検査の実演があり、続いて4号機点検記録の生データを確認しました。